

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 (もみじ)), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373), 自己評価作成日 (令和4年12月1日), 評価結果市町村受理日 (令和5年2月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0171300072-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年1月23日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全職員が理解している、またユニット内にも掲示している。日々その実現に向け研鑽している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事には本年も新型コロナの影響で参加はできていないが、町内の一員として認められている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年も昨年同様新型コロナの影響で、地域の方々と接する機会はほとんどなかったが、連絡はとれる関係性があり、コロナ収束時には各方面で協力をお願いすることになっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員全員の参加は望めない状況ではあるが、感染対策を十分にとりながら、会議は定期的開催している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日常的に連絡は取り合っている。新型コロナの影響で電話やメールで都度連絡をとるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は本人の安全確保のため入居時に説明を行ない理解を得ている。他に研修会も定期的に行っており虐待や拘束について各職員一人ひとりが共通認識のもとケアに取り組めるよう周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては研修会などで学ぶ機会がある。外部の研修会へは参加できない状況にはあるが内部研修で職員全員が研修を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居されていた方の中に保佐人を選定されていた方がいたので、保佐人と後見人の違いについては理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が全てを行なっている。入居時は本人と家族に十分に説明を行ない同意を得ている。何かあれば都度ご理解頂けるよう丁寧に対応するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは手紙や電話またメールなどで連絡を取り合い意志の疎通を図っている。コロナ禍のため面会についての問い合わせも多いができる範囲で反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や希望などは都度、管理者へ報告を行なっている。管理者も職員の意見を集約し代表者にもれなく報告し反映できるものは反映できるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の家庭の事情や体調の把握を行なっている。シフト作成時これらを把握し作成している。また、労働時間についても適正な管理のもと残業しない業務体制に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在もまた新型コロナの影響で外部の研修は参加できていないが、リモートで内部研修は行なっている。職員全員が交替で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響で同業者との交流は面談では行なえていないが、メールなどを利用し、相互の近況を報告しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居もない利用者へはコミュニケーションを図ることを第一の目標にかかげ、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって家族の希望を丁寧に聞き取りを行なっている。また家族が返答しやすい言葉を選ぶ対応を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医療機関があること報告している、受診が必要になった場合はこれの医療機関の受診を含め、状態にふさわしいサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできることは、積極的に声をかけ参加していただいている。年末の大掃除もカーテン外しや、冬期間は除雪もお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本年も新型コロナの影響で面会に制限がかかる状況ではあったが、タブレットと使ったのオンラインで面会していただくなど、できることは可能な限り支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本年も新型コロナの影響で面会も滞りではあるが、遠方より来設された家族へはガラス越しで対面できるよう事前に打ち合わせを行うなど可能な範囲ではあるが努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話しやすよう座席は配慮して。トラブルが多い入居者は席を離すなど配慮している。トラブル後のフォローも大切に円滑な関係性が保てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新型コロナに影響でボランティアの参加がなくなって久しいが、連絡先は把握しており、コロナに制限がなくなりしだいまた行事などに協力していただく予定になっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本年も新型コロナに影響で外出行事は自粛することが多かったが、少しずつではあるが、降車しないドライブとか人出が少ない場所を選んでのドライブなどを提供した。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活歴をお聞きしている。また入居後に職員や入居者同士の会話の中で生活歴の情報収集を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の過ごし方など、ニーズに沿うよう配慮している。体調から静養を優先する方へも生活上ではメリハリをつけるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	直接の面会は行なえていないが、オンラインでの面会を実施している。その折に最近の様子も報告している。本人はもちろん、夜勤職員についても意見を出す環境にし全員の意見が反映できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で変化が見られた時は、経過記録やノートに記することで職員間で情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体力の低下や食事や水分の摂り方など、変化についてはご家族にメールやオンライン面会時などで報告している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で本年もボランティアの方々の協力は得られていないが、連絡は常にとれる体制になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新型コロナの影響で本年も往診はリモートになることが多いが、体調の変化などは随時報告し他の医療機関受診の報告も適時行なっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化は訪問看護時に詳細に報告を行っている。場合によっては採尿を行い訪看のときにお願するなど連携を取りあっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良や思いもかけない怪我で骨折し入院となる場合もある。その際は医療機関に適時本人のその後の状態を聞きながら早期退院に向けて各医療機関との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明して家族にも意識してもらおう形をとっている。重度化で起こってくる日常の変化については都度、家族に報告している。医療処置以外で行なえることを説明し終末期に向けた家族の希望を聞き取りしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急搬送となる場合は、それに対するマニュアルがあり、職員の連携で速やかに受診できるよう準備している。周りの職員との連携が重要なので都度柔軟に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナの影響で本年も地域の方々と共に避難訓練は行っていないが、マニュアルの確認は適時行っている。今回は非常用発電機を実働させた訓練を予定している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄など、プライバシーに関しては、可能な限り他者の視線を意識し対応を行なっている。職員間でのやりとりも隠語を使う配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	年に一度の誕生日や敬老の日、クリスマス、お正月など、イベント時は具体的に食べたい物を詳細にお聞きしてそれに沿う対応を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が好まれることは把握している。パズルや歌のDVDなどを提供したり、静養の希望があれば都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感を大切にしている。敬老の日などのイベント時は家族から送られてきた衣類に着替えていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかは適時聞くようにしている。誕生日には本人の好みのものを提供。食事づくりや後片付けも可能な方は一緒に行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は個人差があるが、水分は本人の嗜好を優先している。温かいものを好むかた、コーヒーよりスポーツ飲料を好む方など好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食後に声かけ行なっている。自力で行なえない方は、全介助で行ない清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔は排泄表を用いて誘導を行なっている。トイレに行くことができない方へは、ベッド上で清拭や洗浄を行なっている。感染症予防に配慮し保清に力を入れた対応を職員間で意識付けしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食では食物繊維を多く含むものを積極的に選択している。水分の提供は当然だが、協力医療機関へも相談し、整腸剤や下剤を処方していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否する方が数名おられるが、体重測る日だからと脱衣場誘導し衣類を脱いだついでに入浴してもらう等の工夫を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静養必要な方もおられるので、その日の体調や食事の食べ方などを観察しながら、静養かコミュニケーションかなどの優先順位を判断をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては協力調剤薬局に都度相談を行ない適切な指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加の好きな方、パズルなどのゲームを好まれる方、冬場の除雪作業を好まれる方、それぞれの力を発揮できるよう支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で本年もまた希望する外出行事は行えなかったが、感染対策を十分に行ない近場で楽しめる場所に行くことで楽しみの提供を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本年も新型コロナの影響で買い物する機会は少なかったが、個人対応で近場のスーパーで買い物された方には、ご自身で支払いをする機会を設けた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本年も新型コロナの影響で、直接の面会はなくオンラインの面会をしえいただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には表札に代わるプレートをつけ場所の特定をしている。トイレや浴室など表示をすることで混乱なく生活できるよう支援している。一人ひとりの生活リズムを考慮し不快にならないテレビの音量や湿度などに配慮している。特にコロナ対策の換気については気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士を隣に配したり、また喧嘩の絶えない方々には席を離すことで、互いの視界に入らないよう席を配している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持って入居される方もおられる。可能な限り、なじみのなる生活道具をもってきていただくよう説明を行なっている。ベッドに関しては介護ベッドが増えてきているが一部ではまだ馴染みのある木製ベッドを使われている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	月内の行事をイラスト入り分かりやすく、楽しみをもって見ていただけるよう掲示物には気を配っている。		